

紙漉き体験の手順（うちわ編）



ようこそ体験工房へ

指定されたテーブル(漉船＝船)へ奥から詰めて隙間なく8名ずつお入り頂きます。原料の準備の都合上クラスや班が離れる場合があります。

レクチャー

スタッフが紙の歴史、紙と和紙の違い、作り方を説明致します。その後、実際に生徒の皆さんに和紙を漉きうちわ作りをして頂きます。



①-枠とうちわの骨を船に入れ水に浸します

②-全体が濡れる程度浸したら枠だけ取り出す

③-大きなボールでコウゾをすくう

横にある大樽からコウゾをすくいます。その際ボールの内側に書かれた線までしっかり入れて下さい。少ないうちわが薄くなってしまいます。

注意1-繊維が沈んでいる事があります。樽のコウゾをしっかりとかき混ぜてからすくって下さい。

注意2-ボールの線までコウゾを入れると約3匁＝3gになります。また粘度の有るコウゾは滑りやすいので溢さないように注意して下さい。



④-枠へコウゾを流し込む

流し込むと網から水分だけが抜け落ち、紙の繊維が枠に残ります。繊維が偏らないようにゆっくりと縦・横にゆすりながら水を切る→これが「紙を漉く」と言われる作業です。



⑤-うちわの骨を斜めに置く

うちわの骨を取り出し枠に置きます。(向きは左右どちらでも良いです)うちわの持ち手の表面が、ツルツルとした方が表です。

注意3-裏表間違えないように注意して下さい。

〇〇市立△△小学校

125

⑥-学校名の紙を右上に置く

事前にご用意頂いた学校名の入った紙を右上に置きます。

注意4-用紙はこちらで用意も可能ですが、その場合は先の様な学校名と番号だけになり、その番号が自分の作品番号になります



⑦-2回目の流し込み

全員、1回目の流し込みが終わりうちわの骨を置いたら2回目の流し込みをします。流し込む際、勢いが良すぎると1回目で流し込んだ繊維に穴を開けてしまう事があります。ボールをしっかり持ち、注ぎ口に手を添えて優しく流し込んで下さい。

注意5-片手での作業となります。お友達と協力して作業して下さい。



⑧-絵を描く

2回目の流し込みが終わり水分が抜けたら、うちわの上に絵を描いていきます。

- ・筆…絵をかくのは筆ではなく針を使います。
- ・絵具…テーブルに赤、青、黄、緑、茶の、5色のコウゾが並んでいます。「絵を描く」と言うよりは、色の付いた繊維をうちわの上に“置く”イメージで絵を書いていきましょう。

注意6-この針は鋭いのでくれぐれも取り扱いには十分注意して下さい。



⑨-広い面を塗る

- ・スプレー…スポイトがスプレーになります。広い範囲を塗るのに便利です。

使い終わったら次の人の為に水槽で洗っておきます。

注意7-スプレーの先端が細いので繊維が詰まる場合があります。その際は係を呼んで下さい。

⑩-5色以外の色は？

紫を塗りたい場合は、青と赤、オレンジは赤と黄、白は大樽のコウゾそのものを使います。青と混ぜると、水色になります。黒は濃い色を少しずつ合わせながら、濃くしていきます。ただし、真っ黒にはなりません。

注意8-色を混ぜる際は、空いているボールで混ぜて下さい。5色のボールや大樽には他の色を絶対混ぜなで下さい。

また、5色の絵の具は一番前におかわりを用意しています。少なくなったらボールを持って前に行き、係からおかわりをもらって下さい。

もし、時間が余ったら余白にも自由に絵や文字を書いてみましょう。

※絵を書き始めたら随時スタッフが回りながら生徒さんのサポートをします。



⑪-完成

完成後、各自枠のまま乾燥台へ持って行き、天日で2日～1週間程度乾かしてから学校へお送りします。運ぶ際は階段や段差に注意し作品を落とさないように注意して下さい。

注意9-段差に気を取られただけを見ていると前の人にぶつかり、二人とも作品を落とすことが多々あります。

⑫-片付け

乾燥台から戻った生徒さんから船の上の絵の具、筆、ボール等を係の指示で片付けて頂き終了となります。

⑬-発送後の仕上げ

乾燥後、うちわは枠からはがし四角いままお送り致します。うちわとしての仕上げは生徒さん各自で行って頂きます。

※別紙「うちわの仕上げ」をご参照下さい。

